

# 2013年度西日本学生バスケットボール選手権大会

|      |                |
|------|----------------|
| 男子   | 準々決勝           |
| 試合日  | 2013.06.07     |
| 開始時間 | 16:00          |
| 会場   | BODYMAKERコロシアム |
| コート  | A コート          |
| 試合NO | 98             |

|      |    |  |       |
|------|----|--|-------|
| 勝チーム | 76 | $\begin{pmatrix} 15 & - & 13 \\ 20 & - & 12 \\ 19 & - & 16 \\ 22 & - & 19 \end{pmatrix}$ | 敗チーム  |
| 近畿大学 |    |  | 同志社大学 |
|      |    |  |       |
|      |    |  |       |

戰記

男子準々決勝、最終試合は関西王者の近畿大学とこれまで熱戦を繰り広げてきた同志社大学の好カードとなった。序盤、タイトなディフェンスからシーソーゲームで白熱した展開となるも、近畿大は#22シェリフのインサイドプレイなどで同志社を苦しめる。後半は、同志社は#0田野を中心に逆転を図るも近畿大は持ち前の得点能力を発揮し、76-60で同志社大学の追撃を振り切った。

第1ピリオド、同志社#37仲西がトスアップから近畿大の隙を突き先制点を挙げる。対する近畿大も#22シェリフのアリウープですぐさま追いつく。しかし開始から波に乗る同志社は強固なディフェンスで近畿大の攻撃をことごとくシャットアウトし、さらに#0田野の3Pシュート含む5得点でリードする。主導権を握られたくない近畿大は#22シェリフがインサイドで踏ん張り、同志社のリードを許さない。両者ともに立ち上がりから気合の入ったディフェンスでロースコアの展開となる中、15-13近畿大リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド、同志社が攻勢に出る。連続4得点でリードを奪い返すと、リバウンドでは仕事人#2石川が堅実な働きでセカンドチャンスを与えない。勢いそのままに同志社がリードを奪うかと思われたが、近畿大も#16橋本や#26松本らが持ち前の得点能力を遺憾なく発揮し、徐々に差を広げ始める。ファウルがかさみ苦しみ始めた同志社、25-35と10点のビハインドを抱え、続く後半に逆転の望みをつなげた。

を抱き、終盤は連続3Pの猛アタックとなりました。決めれば決め返す白熱した展開だったが流れを変えたのはこの第3ピリオド、両者ともにハーダーな立ち上がりとなる。決めれば決め返す白熱した展開だったが流れを変えたのはこの男、同志社#0田野が連続3Pシュートで一気に射程圏内へと点差を縮めると、#14高山の速攻であわや同点というところまで追いつく。しかしここで黙っていないのが関西王者の近畿大。#16橋本、#33藤田が外角からリングを射止めると、キャプテン#10甲斐のドライブで点差はもとの10点に。終了間際、得点を重ねた近畿大が54-41の13点リードで最終ピリオドを迎えた。

第4ピリオド、近畿大の猛攻は止まらない。#26松本と#16橋本のホットラインがつながると#33藤田のシュートや#22シリフのフォローで同志社を突き放す。タイムアウトで立て直しを図る同志社は#0田野がこの日30点目となるドライブを決め勝利への執念を見せる。しかし、チームの柱である#15谷口がファウルアウトすると、近畿大の背中は遠のいていく。最後まであきらめない姿勢を見せた同志社だったが力及ばず。76-60で近畿大がベスト4にコマを進めた。

|    |       |    |                 |    |             |
|----|-------|----|-----------------|----|-------------|
| 主審 | 御手洗 亮 | 副審 | 古島 尚弥           | 戦評 | 木田三平(西日本学連) |
|    | 記録    |    | 西日本学生バスケットボール連盟 |    |             |

近畿大学

同志社大學